

はじめに

先週のグループの発表では、ダダについて触れられている部分が少なかったため、今回の発表は、元々予定していた第3章に加えて、第2章のチューリッヒのダダを発表範囲に加えました。皆さんは第2章の文献を読んでいないため、分かりにくい部分もあると思います。しかし、そもそもダダはいかにして始まったのかを少しでも理解していただけたら、と思います。

チューリッヒ・ダダ ～ダダの始まり～

【なぜチューリッヒ（スイス）でダダが発生したのか？】

・ダダが発生した要因

- ① 第一次世界大戦に対する抵抗
- ② ①によってもたらされた虚無感

・なぜスイスで起こったのか？

③地理的要因

スイスはヨーロッパのほぼ中央に位置していたが、アルプス山脈によって外部の戦争から隔絶されていた。

④政治的要因

政治的中立国であるため。

→戦争から逃れてきた知識人や芸術家の受け皿

【チューリッヒ・ダダの始まり】

1916年2月 キャバレ・ヴォルテール開店

ドイツ人作家フーゴ・バルによって開かれ、チューリッヒ・ダダの中核となる。

夜会（ソワレ）には多くの芸術家が集まる。

音楽、踊り、理論、宣言、詩、絵、衣装、仮面など多種多様。

◎中心人物

ハンス・アルプ

「幾何学的コラージュ」(1916)

「森、地上的フォルム」(1916)

マルセル・ヤンコ

「チューリッヒ舞踏会」(1917)

「仮面」(1919)

リヒャルト・ヒュルゼンベック

「幻想的祈祷」(1916)

トリスタン・ツァラ

「アンチピリン氏の宣言」(1916)

【ダダの特徴】

- ・ 戦時下における人々の不安・虚無感を反映
- ・ それぞれの芸術家が緩やかな連合を形成
- ・ ツァラだけがダダを既成文化に対する勢力としてみている
- ・ ダダは既成の諸価値を拒絶する態度だけで一致した芸術家たちの緩やかな連合を形成していた。

【作品とその影響】

- ・ ヒュルゼンベック『黒人の歌』（1916年3月）
ヤンコ『仮面』（1919年）
→ヨーロッパの伝統文化を打破する手段としてアフリカ芸術を応用
- ・ バル『象の隊商』
→情緒的レヴェルで普遍的に感知可能な意味の要素を伝える
- ・ ツァラ『アンチピリン氏の宣言』（1916年）
→あらゆる既成の約束事への明確な挑戦
→チューリヒ・ダダのリーダーシップがツァラに移ったことを印象付けた。
- ・ ツァラ『アンチピリン氏の最初の天上冒険』（1916年）
ヒュルゼンベック『シャラベン・シャラバイ・シャラメゾマイ』『幻想的祈祷』（1916年）
→人々が一定の概念を抱くのに役立つ
→ダダは自前の雑誌を持つ前衛運動をみなされた。そしてダダは既成の諸価値を拒絶する態度だけで一致した芸術家たちの緩やかな連合を形成していた

各都市のダダ ～パリ・NY・バルセロナ～

(表として添付したもう一つの PDF と照らし合わせてご覧ください)

ブレダダ

ピカビア、デュシャン、アポリネールの三人が戦争の10年ほど前に行った運動。
ダダの精神に近いが、ブレダダにおける偶発性はチューリッヒ・ダダの緊迫した調子とは対照的であった。

1913年アーモリーショー

この時期のアメリカでは立体派を知る者が少なかったのでアーモリーショーは社会に影響を与えデュシャンとピカビアの名がニューヨークに広がるきっかけとなった。

デュシャン『階段をおりる裸体 No.2』

1915年『291』出版

スティーグリッツが主催した芸術写真と前衛芸術を展示した「フォトセセッション」の住所から命名された雑誌。アメリカとヨーロッパの芸術活動をつなぐ雑誌となった。

1915年ピカビア、デュシャンがニューヨークへ

1916年、デュシャンが「レディメイド」を発明

大量生産された作品が芸術家の選択によって作品になるという考え。デュシャンはこれを3年前にパリで成し遂げていたがアメリカならヨーロッパよりも受けて入れてくれると思い、アメリカに行くまで発表しなかった。

『391』発行

廃刊となった『291』に敬意を表してつけられた名前。ピカビアが発行。

泉

デュシャンが「独立芸術協会」という提出された全ての作品を展示する展覧会に委員会の真意を試そうと偽名で出品した作品の名称。

1919年3月『TNT』創刊

ニューヨークでマン・レイ、ヴォルフ、アドン・ラクロワによって編集された雑誌。

1919年後半『LHOOQ』

デュシャンがレオナルドの『モナ・リザ』の複製に口ひげと顎ひげをつけて発表した作品。口ひげと顎ひげの追加により画家とモデルと作品にむけられる視線にひそむ性的で偶像破壊的でユーモラスな連想を表そうとした。

1920年『回転ガラス板』制作

デュシャン、マン・レイが制作したモーターで動く作品。同心円が回転して錯覚を生じさせるしかけのもの。

デュシャン、ドライヤーと知り合う

ソシエテ・アノニムコレクションという国際的モダンアートの公開を目的としたコレクションの開設にデュシャンとマン・レイがドライヤーに手を貸した。これはフランス人であるデュシャンとドイツ人であるドライヤーの結びつきを反映している。

1921年デュシャンとマン・レイにより『ニューヨーク・ダダ』発行

この雑誌でダダという言葉がニューヨークに輸入された。

1921年12月エストリデンティスモ運動

メキシコで起った運動で政治参加という要素をもち、ダダより楽天的な世界観を提供した。ダダの反響とみなされている。

ドメネック、ガウディ、スニエル

パリとヨーロッパへのスペインからの入口という位置づけをされていたバルセロナを代表する建築家。

リュイス・ドメネック『音楽堂』1908年

アントニ・ガウディ『サグラダ・ファミリア(聖家族)』1901年建築開始

ホアキン・スニエル『ノウセンティスム(20世紀主義)』

1912年立体派展

ジョセフ・ダルマウがパリ以外での初の立体派展をカタルーニャでひらく。

1917年宣言『芸術・発展』

トルレス・ガルシアがツァラの宣言に近い、個人主義からインターナショナリズムがはじまるという宣言をしている。

1915～1916年バルセロナにおける芸術家間の対立

ニューヨークに向かう前に滞在したクラヴァンの存在が原因。クラヴァンの発言、行動にはダダ的な要素がありこのことでまわりとの関係を悪くした。

1917年フランス美術展

バルセロナで開かれた美術展。印象主義から野獣主義までパリの前衛芸術を展示した。

発表を前に

ダダの直接の起源は、チューリッヒに探る事が出来ます。そして、その運動はベルリン・パリ・ニューヨーク・バルセロナでも大きなうねりとして出現しています。しかし、ツアラが1918年にチューリッヒで「ダダ宣言」をしてから、ブルトンが「シュールレアリスム宣言」をするまで、わずか5年程でした。過去に対して破壊を試み、ヨーロッパ各地のみならずアメリカまで飛び火したその運動が、統一された意思のもとに広がったのであれば、わずか5年程度で芸術の主流がシュールレアリスムに取って代わられるのは不思議な事のように思える。

そこで私たちは、チューリッヒから発信されたとするダダについて疑い、検証してみたいと思います。